

小見川総合病院新改革プランの点検・評価
(平成29年度分)

香取市東庄町病院組合

経営指標に係る数値目標

項目			平成29年度		目標達成率 (%)	達成度	未達成の要因
			目標値	実績値			
経営の効率化	収支改善に係るもの	経常損益（百万円）	4	159	3,975	◎	
		経常収支比率（%）	100.1	104.9	105	◎	
		医業収支比率（%）	98.3	103.7	105	◎	
	経費削減に係るもの	医業収益対給与費率（%）	48.1	45.4	106	◎	
		医業収益対材料費比率（%）	23.8	21.6	110	◎	
		医業収益対経費比率（%）	24.7	24.5	101	◎	
	収入確保に係るもの	1日当たり入院患者数（人）	95	109.7	115	◎	
		1日当たり外来患者数（人）	427	440.0	103	◎	
		病床利用率（%）	54.1	64.5	119	◎	
		平均在院日数（日）	13.0	14.2	92	○	
	経営の安定性に係るもの	常勤医師数（人）	9	8	89	△	地域事情などの理由から、確保が難しい。
医療機能等指標に係る数値目標	医療機能・医療品質に係るもの	救急患者数（人）	1,000	1,041	104	◎	
		手術件数（件）	890	1,127	127	◎	
		訪問看護件数（件）	900	834	93	○	
		リハビリ件数（件）	9,900	13,732	139	◎	

数値目標に対する達成度

区分	評価の内容
◎	達成（目標達成率が100%以上の場合）
○	概ね達成（目標達成率が90%以上100%未満の場合）
△	未達成（目標達成率が90%未満の場合）

目標達成に向けた具体的な取組み

項目	具体的な取組内容	取組みに対する点検・評価
医師の確保	常勤医師を確保するため、医師の派遣を大学や県等へ継続して要望していく。様々な手法を検討する。	喫緊の課題である医師の確保について積極的に取組むため、総務課に専任者を配置した。また、近隣病院で医師の採用実績のある紹介会社と業務委託契約を締結し、病院の広報活動や大学病院への派遣要請を行った。
時間外救急体制の強化	常勤・非常勤医師を効果的に配置する。消防署、医師間の協力体制を構築する。	常勤医師と非常勤医師の連携を図り、救急外来対応から入院までの受入れを行った。
地域医療連携体制の強化	近隣病院や診療所と相互に情報交換を行い、効率的な医療提供体制を構築する。当病院と地域の病院や診療所の医療連携を深めていく。	地域医療支援室を窓口到他施設と情報を共有し、相互に患者受入れを柔軟に対応した。また、地域医療連携会議や交流会に参加し、情報の共有を深めた。
診療科目の検討	当病院で担うべき医療について地域医療環境を踏まえ診療科目等の検討を随時行う。	平成29年8月から一般病床の一部を地域包括ケア病床に転換し、急性期から回復期、在宅医療に至るまでの一連のサービスを総合的に確保することで病床機能の分化と連携に努めた。
病床利用率の向上	医師及び看護職員体制を整備する。効率的なベッドコントロールを行い、患者が速やかに入院できるように病床の効果的な運用に努める。	病床の空床状況を一覧表化し、誰もが把握できるよう各部署に随時周知することで、病床の効率的な運用と患者の受入れに努めた結果、病床利用率の向上に繋がっている。
診療報酬請求の適正化	診療報酬の改定に伴う施設基準の変更、加算可能な診療報酬上の認定に関する届出を迅速に対応する。	地域包括ケア病床への転換に係る届出やその他施設基準の変更に対する届出を速やかに行った。また、外部の研修会で学んだ内容を職員間で情報共有し請求事務の適正化に努めたほか、診療報酬改定に向け、看護師等の医療従事者を含めた勉強会を開催し事務職員のみならず多くの職員の知識と理解を深めた。
コスト削減の推進	材料費は値引率の有利なものを購入することはもとより、契約方法や発注方法等の見直しを行い効率的な購入をする。適正在庫量の設定、品目数の整理により適正管理に努める。 薬品は、可能な限り後発医薬品への切替えを速やかに行い薬品費の削減に努める。 業務委託は、業務内容の見直しにより外部委託の可能なものは移行するとともに、現在契約している業務の内容や仕様書の再点検を行い委託費の削減に努める。	薬品は、在庫の品目、数量の適正化を図ることにより、発注方法を改め効率化した。また、医師と協議し可能なものは後発医薬品へ切替えを進めている。 診療材料は、組織的に価格交渉を行うことにより、安価購入に努めた。 業務委託は、高額医療機器の保守委託業務内容等を見直し、経費の削減に努めた。

計画的な医療機器の整備	高度医療機器の購入や更新については、耐用年数、使用頻度、診療上の必要性等を考慮し計画的な整備を図る。電子カルテを導入し、業務効率と生産性、医療の質・効率化・安全性の向上を図る。	平成31年度開院予定の新病院への移設などを考慮し、計画的な整備に努めた。また、電子カルテは新病院開院にあわせ導入予定である。
人件費の適正化	患者数や医療提供状況に即した業務内容の見直しや職員定員適正化計画を策定し、業務に見合った効率的な人員配置に努める。再任用制度を積極的に活用する。	職員定員適正化計画の策定については、新病院の規模を考慮し開院までに作成の予定である。 再任用制度を活用した職員数は、平成29年4月採用職員17人のうち、6人であった。
院内組織体制の改革	病院の建て替えに伴い、病床数が170床から100床に縮小する時期に合わせ、組織の見直しを行う。科の統合や管理職ポストの削減などを行い、病院の適正規模にあった体制への構築を図る。	病床規模が縮小する新病院の組織体制を検討している。
経営向上に向けた会議の実施	毎月、開催する「国保小見川総合病院運営委員会」において、経営状況の報告を継続して行い、職員一人ひとりの経営に対する意識の醸成を図る。経営に対して重要な事案や早急に判断が必要な案件については、病院長をトップとした幹部で構成される「経営会議」を設置し、迅速な対応を図れるよう行っていく。	職員一人ひとりの経営に対する意識の向上が図られている。外来から入院に至るまでの患者の受入れが円滑に行われ、結果として医業収益の改善に繋がっている。また、医局会では管理者である組合長を交え毎月1回の会議を開催し、経営に対する協議、検討を重ねているほか、必要に応じて病院長をはじめとしたトップ会議を行い、様々な課題に対して迅速に対応した。
病院組合構成自治体との課題共有化	病院組合構成自治体へ経営状況を定期的に報告する。地域医療を進める中での課題等について、地域全体の課題と捉えて対応するため、構成自治体と適宜会議を実施し、相互に情報交換をしていく。	毎月の経営状況について、構成自治体首長へ報告を行っている。 地域医療の現状を捉え課題等の解消を図るため、香取海匠地域保健医療連携・地域医療構想調整会議を行っている。
人材育成による環境整備及び経営感覚に富む人材の登用	高質な医療提供をするために、職員の資格取得や研修の支援を行い、院内環境整備を図る。病院経営に精通した経営感覚に富む人材の登用を検討する。	職員の研修等の支援として、研究研修費が対前年度比で642千円増額支出となった。また、経営マネジメントに秀でた人材を登用し、経営改善を図ることを目的に特定任期付職員の公募を行うが、適任者がおらず採用には至っていない。